

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育内容総論	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 瀧澤 延子 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所保育指針における「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を学ぶ。 また、それらを構成している保育の多様な展開についても学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育内容とは、幼稚園・保育園・認定こども園などにおける保育の目的を達成するために展開される保育の営み全てであり、相互に関連し、総合的に指導・展開されるものであることを、テキストや具体的な保育の実践事例を基に学んでいく。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>・学生自らの主体的態度を育み、保育者として保育の多様な展開について必要な保育実践力を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育内容」とは何か 2. 保育内容の歴史的変遷と保育所生活の全体構造 3. 発達の捉え方と保育内容 4. 保育内容における遊びの意味 5. 保育の一日と内容 6. 多様な保育・子育て支援の展開 7. 乳児保育 8. 長時間保育 9. 病児・病後児保育 10. 特別な支援を必要とする子どもの保育 11. 多文化共生の保育 12. 保育所・幼稚園・認定こども園における小学校との連携 13. 保育内容と子ども理解 14. 保育内容の課題と保育者の専門性・展望 15. 試験 			
[使用テキスト・参考文献] ・「保育内容総論」(建帛社出版) ・保育所保育指針 ・プリント配布		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 小林 智子・松本 貴子 鶴川 真裕美 (全員実務経験者)	
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・通年	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・ 保育所・施設などの機能や内容、保育士としての職務について理解する。			
[授業全体の内容の概要] ・ 実習に関する目的と概要・記録のとり方・実習生に臨む姿勢などについて理解する。 ・ 学外からの特別講師により実習に向けた心構えや必要な準備などを把握する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 実習指導を通して今現在の自らの課題を抽出し改善の意識を持つことができる。 ・ 実習の重要性を認識し、基礎的な保育士の役割について理解することができる。 ・ 実習生として求められている姿を明確にし、そこに向けた自己研鑽が継続できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 自己紹介ボードの説明、計画を立てる 2. 自己紹介ボード作成① 3. 自己紹介ボード作成② 4. 自己紹介ボード発表と提出 5. 実習エプロンの説明、計画を立てる 6. 実習エプロン制作① 7. 実習エプロン制作② 8. 実習エプロン制作③ 9. 実習エプロン制作④ 10. 実習エプロンの発表と提出 11. 日誌の書き写し 12. 施設実習とは何か (目的と意義) 13. 保育実習 I (施設) 実習の希望調査用紙配布、自主実習に向けての説明 14. 保育実習 I (保育所) の目的と意義について学ぶ 15. 自主実習事前指導、保育者のマナーとは、夏休みの課題説明 16. 夏休みの課題回収および発表、自主実習後の振り返り、自己課題の抽出 17. 実習日誌記入に向けた説明、日誌の必要性を学ぶ 18. DVD を観て日誌に書き起こす 19. 実習の手引き配布、書類作成 (誓約書・調書) 20. 実習に臨むにあたり記入 21. 特別講義 22. 指導案作成に向けた説明、保育実習 II・III の希望調査実施			

23. 指導案作成①（導入～絵本読み聞かせ）
24. 指導案作成②（導入～ゲーム運営）
25. 実習前オリエンテーションに向けた準備、予約
26. 実習の日々のねらい作成（10日分および土曜保育分）
27. 実習評価・実習のまとめ・お礼状・出勤簿についての説明、持ち物検査の実施
28. 指導案の返却、実習出発式に向けた準備・自己課題の確認、リハーサル
29. 実習日誌記入上の諸注意確認、実習日誌の実際を学ぶ
30. 実習ファイルの配布

[使用テキスト・参考文献]

- ・実習の記録と指導案（ひかりのくに）
- ・mew 保育教本（オリジナルテキスト）
- ・実習の手引き
- ・その他参考資料を適宜配布

[単位認定の方法及び基準]

- ・単位取得には8割以上の出席が必要
- ・課題の提出状況・授業態度状況、課題日誌提出状況より到達目標の6割以上修得が認められる場合

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育原理 I		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の実践を支える理論的な基礎を構築するため、保育の意義と目的を理解する。 ・ 保育に関する法令及び制度を理解した上で、現代で求められている保育内容や保育士の社会的役割について理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念・概念・法令・制度などを知りそれに基づきながら、保育を行う上で必要な基本的知識を得る。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育とは何か、子ども理解、保育の環境、保育内容と方法、保育の過程など保育の全体像について理解することができる。また、現状において保育者に求められることは何かなどについて、自分なりに考察することができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育」とは何か、「保育」を行う施設と人 2. 「保育」「教育」「養護」という言葉について 3. 現代における保育の基盤を学ぶ 4. 子ども観と保育の内容・方法 5. 保育における「子ども理解」とは 6. 子どもの発達を捉える様々な「まなざし」 7. 子どもが育つ環境の基本 8. 子どもを取り巻く環境と保育 9. 保育の基本と保育内容・方法について 10. 子どものための保育内容とは 11. 子どものための保育方法とは 12. 保育における計画とその種類 13. 子ども理解に基づいた評価の重要性 14. まとめ (プレテスト実施) 15. 期末試験 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「新しい保育講座①保育原理」 (ミネルヴァ書房) ・ 保育所保育指針解説書 (フレーベル館) ・ 幼稚園教育要領解説 (フレーベル館) 			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・ 筆記試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要 		

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育の計画と評価	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 長谷川 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について学び、全体的な計画と指導案のつながりについて、その意義と方法を理解する。また、子どもの理解に基づく保育の過程についても理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 ・ 子どもの主体性を反映した指導計画の作成について具体的に理解する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所においては保育課程に基づいて指導計画を作成し、日々の保育を展開することや、子どもの発達の連続性を意識した生活や保育内容にしていくことを理解する。 ・ 計画、実践、省察、評価、改善の過程について、その全体構造を理解する。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育課程・教育課程とは何か① 2. 保育課程・教育課程とは何か② 3. さまざまな教育課程 4. 幼稚園の教育課程 5. 保育所の全体的な計画 (保育課程) 6. 幼稚園・保育所の生活と乳幼児の理解 7. 教育課程・全体的な計画 (保育課程)・指導計画を考える上で共通に必要なこと 8. 全体的な計画 (保育課程)・指導計画を考える上で必要なこと 9. 教育課程の編成から長期の指導計画へ 10. 短期の指導計画の作成 11. 全体的な計画 (保育課程) を編成し、指導計画を作成する 12. 指導計画の実践 13. 教育課程・指導計画の P D C A サイクル 14. まとめ 15. 定期試験 			
[使用テキスト・参考文献] ・ 『就学前教育の計画を学ぶ』 (ななみ書房)		[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・ 筆記試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要	

授業概要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名) 保育の音楽表現 I	授業の種類 (演習)	授業担当者 竹内公一・佐々木陽子・中澤美和子 江口裕子・渡邊若菜・坂井恵美子・玉橋寿子 (全員実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

保育現場で必要とされるピアノ演奏、童謡の弾き歌いを基礎から習得する。

[授業全体の内容と概要]

各クラスを2グループに分け、全体レッスン受講以外の学生はピアノの個人レッスンを受ける。全体レッスンでは基礎的な音楽理論、コード奏法による童謡のピアノ演奏を学び、個人レッスンではグレード制(歌唱教材伴奏法による)を取り入れ、個人の進捗状況に合わせて担当教官の指導を受ける。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ・ハ長調とト長調のスケール・4種のコードによるカデンツの習得。
- ・ハ長調とト長調の簡単な童謡をコード伴奏で弾けるようにする。
- ・グレード8級(歌唱教材伴奏法 no.30 と no.31)の取得。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1年前期	理論	スケール	コード	実践	個人レッスン	
①	楽譜の読み方・鍵盤・音名・指番号	Cdur	Cdur C・G	Cdur ちょうちょう・かたつむり ↓ 歌・右手		
②			Cdur C・G・G7	↓ 片手		
③	音符と休符		Cdur C・F・G・G7	↓ 両手	Cdur たんじょうび ↓ 歌・右手	グレード試験
④				Cdur 大きな栗の木の下で ↓ 歌・右手	↓ 片手	
⑤		Cdur スケールカデンツ小テスト		↓ 片手	↓ 両手	
⑥	拍子とリズム			↓ 両手	Cdur 手をたたきましょう ↓ 歌・右手	グレード試験
⑦		Cdur Gdur	Cdur 全て Gdur G・D	Gdur ぶんぶんぶん ↓ 歌・右手	↓ 片手	
⑧	反復記号		Cdur 全て Gdur G・D・D7	↓ 片手	↓ 両手	
⑨			Cdur 全て Gdur G・C・D・D7	↓ 両手	Gdur むすんでひらいて ↓ 歌・右手	グレード試験
⑩	楽語			Gdur みずあそび ↓ 歌・右手	↓ 片手	
⑪		Gdur スケールカデンツ小テスト		↓ 片手	↓ 両手	
⑫				↓ 両手		グレード試験
⑬				↓ これまでの復習		
⑭	筆記試験					
⑮	実技試験					

[使用テキスト・参考文献]

- ・ こどもの歌ベストテン ドレミ出版
- ・ 歌唱教材伴奏法 バイエルとツェルニーによる 教育芸術社

[単位認定の方法及び基準]

- ・ 単位取得には8割以上の出席が必要
- ・ 実技試験と筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 乳児保育 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 長谷川 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>3 歳未満児の発育・発達を踏まえ、保育所・乳児院などの乳児保育の現状を理解する。さらに乳児保育の意義・目的・変遷・役割についても学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>3 歳未満児の発達を理解するため基本的視点及び、発達段階から学ぶ。乳児保育の意義・目的・変遷・役割を学ぶ中で「養護」に対する基本的な考え方と心構えを取得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 歳未満児におけるそれぞれの時期の成長発達の特徴がわかる。 ・ 乳児保育の意義・目的・変遷・役割がわかる。 ・ 3 歳未満児におけるそれぞれの時期へのふさわしい関わり方がわかる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育とは 2. 0 歳児前半の発達の特徴 (姿勢・運動・手指の発達) 3. 0 歳児前半の発達の特徴 (社会的交流の力の発達・生理的リズムから社会的リズムへ) 4. 0 歳児後半の発達の特徴 (姿勢・運動の発達・手指の発達) 5. 0 歳児前半の発達の特徴 (言語や認識の発達) 6. 1 歳児の発達の特徴 (姿勢・運動・手指や操作の発達) 7. 1 歳児の発達の特徴 (言語や認識の発達・自我の発達) 8. 2 歳児の発達の特徴 (姿勢・運動・手指や操作の発達) 9. 2 歳児の発達の特徴 (言語や認識の発達・自我の拡大と充実) 10. 乳児の体と生理 11. 乳児の症状についての考え方 12. 乳児期に見られる病気・自己と救急 13. 乳児保育の変遷と役割 14. 乳児保育における養護の基本的考え方 15. 試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト乳児保育改定新版 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

科目名 情報 I	授業の種類 演習	授業担当者 田村 人志	
授業回数 15回	時間数(単位数) 1.5時間	配当学年・時期 1学年・前期	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入力操作に慣れる 2 ワードプロソフト「Word」、プレゼンテーションソフト「Powerpoint」の機能を理解する 3 「Word」や「Powerpoint」が扱える。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>機能面の説明から始め、Powerpointを使った地図や図柄の作成やWordを使った簡単なビジネス文書を作成し、初心者でも、扱いに慣れるようにする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 パソコンの基本的な操作方法を理解する。 2 入力速度を向上させる。 3 Powerpointによる図形作成ができる。 4 Wordによるビジネス文書が作成できる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習室の利用方法・パソコン起動の説明 2 タイピングの簡単な説明Ⅰ(キーボードの配置の説明他) 3 タイピングの簡単な説明Ⅱ(タッチタイピングの基本) 4 タイピングの簡単な説明Ⅲ(入力速度練習) 5 Powerpointの機能説明 6 Powerpointによる図形作成Ⅰ(図形の挿入他) 7 Powerpointによる図形作成Ⅱ(図形の書式設定他) 8 Powerpointによる図形作成Ⅲ(図形のグループ化、挿入位置、回転他) 9 Powerpointによる図形作成Ⅳ(ひよこの作成他) 10 Powerpointによる図形作成Ⅴ(リス、チューリップ、おむすびの作成) 11 Wordの機能名称説明、Wordを使ったビジネス文書の作成Ⅰ(ヘッダー入力他) 12 Wordを使ったビジネス文書の作成Ⅱ(フォント、段落の設定) 13 Wordを使ったビジネス文書の作成Ⅲ(インデント他の設定) 14 Wordを使ったビジネス文書の作成Ⅳ(自力作成の練習) 15 期末試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>保育者のためのパソコン講座 朋文書林 2,000円+税</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・実技試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 社会福祉	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 立花 匡真	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必須・選択 必須
[授業の目的・ねらい] 今日、保育士は福祉の専門職として明確に位置づけられており、社会福祉の知識は必須とされていることから、社会福祉で使われる基礎的な概念を理解するとともに、今日における社会福祉をとりまく状況を概観し、社会福祉が直面している現実を目を向ける。さらに、社会福祉の通史をたどり、社会福祉の概念がどのように形成されてきたか、今日の社会福祉の制度や施策がどのようにして成立したのかを理解し、社会福祉の実際を社会福祉施設・機関・専門職の活動から社会福祉の援助と方法について理解する。			
[授業全体の内容の概要] 社会福祉の共通事項、社会福祉の総論的なことがらを学習し、社会福祉で使われる基礎的な概念を理解する。さらに社会福祉が直面している現実を目を向け、社会福祉の実際を社会福祉施設・機関・専門職の活動から社会福祉の援助と方法について理解する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 社会福祉の総論的な内容 (基礎概念・歴史・現状と課題) を講義する。その中で、社会福祉とは何だろう? と問われたときに、自分なりに答えられるように社会福祉に関する知識を身につけることを目指す。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 社会福祉とは何だろう? —— 社会福祉の基礎概念 (社会福祉の理念と概念) 2. 社会福祉の歴史の変遷① —— 慈善事業から福祉国家へ 3. 社会福祉の歴史の変遷② —— 福祉国家から地域福祉へ 4. 社会福祉と児童家庭福祉 5. 社会福祉の制度と実施体系① —— 福祉を支える法律と財政 6. 社会福祉の制度と実施体系② —— 公的扶助のしくみ 7. 社会福祉の制度と実施体系③ —— 社会保険のしくみ 8. 社会福祉の制度と実施体系④ —— 社会福祉の専門職・実践者、権利擁護のしくみ 9. 社会福祉における相談援助① —— 相談援助の意義と原則 10. 社会福祉における相談援助② —— 相談援助の方法と技術 その1 11. 社会福祉における相談援助③ —— 相談援助の方法と技術 その2 12. 社会福祉の動向と課題① —— 少子高齢社会への対応 13. 社会福祉の動向と課題② —— 在宅福祉・地域福祉の推進 14. 社会福祉の動向と課題③及びプレテスト —— 他分野との連携とネットワーク 15. 定期試験			
[使用テキスト・参考文献] ① 『生活事例からはじめる社会福祉』 吉田 眞理 著/青踏社		[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と言葉	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 長谷川 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>乳幼児をとりまく環境や他者とのかかわりを通して発達する「言葉」の特性と「言葉」における保育者の役割の重要性がわかる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳幼児が言葉を獲得する過程を理解し、言葉の発達の背景にある保育内容を考えながら、保育のあり方や援助の方法を学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>言葉の基礎が育まれる乳幼児期において、保育者の役割の重要性を学んだ上で、自分自身の言葉のありようを見つめ直し、保育現場で実践できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の言葉 (方言・敬語・幼稚園語) 絵本について 2. 保育者の言葉 (保育者の話し方・発問と助言・保育者の発声) 3. 子どもの言葉 (言葉の発達・言葉の発達と条件) 4. 子どもの言葉 (音声の発達・語彙の発達) 5. 子どもの言葉 (文字の発達・言語障害) 6. 言葉の指導と計画 7. 言葉遊び (種類とねらい) 8. 言葉遊び (ルールと解説) 9. 紙芝居について 10. ペープサートについて 11. パネルシアターについて 12. エプロンシアターについて 13. 人形劇・劇遊び・わらべ歌について 14. テレビについて 15. 試験 			
[使用テキスト・参考文献] ・新訂保育内容指導法「言葉」(保育出版社)		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

科目名 英語 I		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 前原 良彦	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 1学年・前期		必修・選択 必修 ・選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>基礎的な英語能力を高め、簡単な英語を使って、自分の意見を述べるができる。隣友の中で英語を通して、友人たちの新しい側面をお互いに知ることができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>基本的な英語によるセンテンス・パターンを練習することによって、英語によるコミュニケーション能力を身に付けることができる。隣友の中英語で意思疎通を図ることができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①基本的英単語の意味が解る。②英語による対話での確かな表現を選択できる。③英語による相手の質問に、英語で答えることができる。④課題に対して英語を使って自由に作文ができる。⑤隣友関係の醸成。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 CDに準拠したコミュニケーションのための英語</p> <p>1UNIT1 初対面でのあいさつと自己紹介、専攻の応答ができる</p> <p>2UNIT2 Can I get your telephone number? 電話番号について応答ができる</p> <p>3UNIT3 What's the time? 毎日の習慣について何時にどんな方法で行っているか応答できる</p> <p>4UNIT4 Hometowns①出身県(市町村)について②そこで何が有名か応答できる</p> <p>5UNIT5 What's your favorite food?食物(果実・野菜・飲物)の好み・苦手を応答できる</p> <p>6UNIT6 How often do you ...? 習慣について、どの位の頻度で～するか応答できる</p> <p>7UNIT7 Music in your life どんな音楽のジャンルや、楽曲が好きかを応答できる</p> <p>8UNIT8 Who's older, you or your sister? AとBはどちらが年上か?比較級・最上級の表現に応答できる。How many 複数名詞 are there in 単数名詞?の応答ができる</p> <p>9UNIT9 How was your weekend? 週末はどう(be動詞)でしたか?何をしましたか(一般動詞)?の過去形を使った応答ができる。(不)規則動詞の読書きができる</p> <p>10UNIT10 Movies and Dating 楽しいデートのアイデア映画の好嫌いについて応答できる</p> <p>11UNIT11 Weather, Seasons, and Health 天候について形容詞・健康について表現がわかる。相手の好きな季節について応答できる。病気になった時の行動について応答できる</p> <p>12UNIT12 Cell phones, Computers, and Other Useful things 便利な機器の名が解る。</p> <p>13UNIT13 Have you ever...? 今迄の経験について応答できる。過去分詞が解る。</p> <p>14UNIT14 試験ガイダンス。英語 I の総合復習。</p> <p>15UNIT15 筆記による期末試験</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>・"Getting into English" 発行所 南雲堂 著者 Joseph Cronin and Eric Bray</p> <p>・"保育英語の練習帳"発行所 萌文書林 著者 宮田学(編) 高橋妙子(著)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>・単位取得には8割以上の出席が必要</p> <p>・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要</p>		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) スポーツ理論	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 大塚 三聖 (実務経験者)	
授業の回数 8回	時間数 (単位数) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>ライフステージ各期のめざすべき健康像を把握し、それが実現のための知識を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>年齢に合った健康な体力作りとその管理、維持、増進のための適切な運動、休養を身につけ習慣化する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>I. 健康について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の生活と健康 2. こころの健康 3. 現代の社会と健康 <p>II. 運動について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体力 2. 身体 3. 運動 <p>III. スポーツについて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツの意味 2. 「する」スポーツ 3. 「みる」スポーツ 4. 「ささえる」スポーツ 			
[使用テキスト・参考文献] 大学生の健康・スポーツ科学		[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) コミュニケーションスキル		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 瀧澤 延子 (実務経験者)
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と接する上で必要不可欠なコミュニケーションを行う上での基本的な姿勢がわかる。 ・様々な場面に応じた対応の仕方や文章の書き方など実践を通して身に付けることができる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>前半は実技として対人関係におけるマナーやコミュニケーションスキルを身に付ける。後半は理論として敬語の使い方を始め、手紙やビジネス文章の書き方や接待マナーなどを身に付ける。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と円滑なコミュニケーションをとるための技術や方法をしゅとく取得でき ・敬語の使い方や手紙、ビジネス文章の書き方がわかる。 ・冠婚葬祭や食事場面などにおける基本的なマナーがわかる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本授業の概要とコミュニケーションとは何か 2 アサーショントレーニング、ソーシャルスキルとは何か 3 アサーショントレーニング事例① (友人) 4 アサーショントレーニング事例② (同僚、上司) 5 アサーショントレーニング事例③ (子ども) 6 アサーショントレーニング事例④ (保護者) 7 話し方のポイントと返事・挨拶 8 敬語の種類 9 電話のマナー (実習と関連付けながら) 10 手紙やビジネス文章の書き方 (実習のお礼と関連付けながら) 11 保護者と来客対応 12 乗車位置や接待などのマナー (忘年会・新年会などの食事場面) 13 冠婚葬祭のマナー 14 まとめ 15 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 必要に応じてプリントを配布する			[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こども家庭福祉		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 松本 貴子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉の一翼であるこども家庭福祉について理解し、「社会福祉観」を構築する基礎をつくる。 ・ こども家庭福祉における様々な法体系・施策 (サービス) などについて理解を深める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会におけるこども家庭福祉の意義・役割等を明らかにする。 ・ こども家庭福祉の各施策 (サービス) について、実際の生活に基づいて解説する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こども家庭福祉の意義・役割等についての理解を深めることができる。 ・ こども家庭福祉について自身にとっても身近なものとして捉え、考えることができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 こども家庭福祉とは何か 2 こども家庭福祉の理念と概念 3 こども家庭福祉の歴史の変遷 4 こども家庭福祉の制度と法体系 5 こども家庭福祉に関わる機関 6 児童福祉施設の概要 7 こども家庭福祉の専門職 8 こども家庭福祉の現状と課題① 少子化と地域子育て支援 9 こども家庭福祉の現状と課題② 母子保健と子どもの健全育成 10 こども家庭福祉の現状と課題③ 多様な保育ニーズへの対応 虐待問題 11 こども家庭福祉の現状と課題④ 障害福祉・非行問題 12 貧困・外国籍 社会的養護 13 こども家庭福祉の動向と展望 14 まとめ 15 定期試験 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>こども家庭福祉 (ミネルヴァ書房)</p> <p>保育者のためのこども家庭福祉 (萌文書林)</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・ 筆記試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要 		

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と表現 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 小林 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育園で日常的に歌われる歌にできるだけ多く触れ、歌唱・手あそび歌・リトミック・わらべうた等の様々なかたちで現場に活かせるよう実践力と表現力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>園生活の歌・行事の歌・童謡等多くの歌を歌い、手あそび・ふれあいあそび・リトミック・わらべうた等の実際に保育園で役立つ音楽表現の演習を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園生活の歌や童謡等を保育士にふさわしい声量と音程・表情で幅広く歌う技術を身につけ、場面に応じたものを提供できる。 ・年齢や季節に即した表現活動を理解し、簡単な導入を交えて音を通したあそび支援ができるようになる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>※保育園で歌う歌を設定。授業でプリント配布。</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4月の歌 (ちょうちょ、チューリップ他) 自己紹介手遊び、春の手遊び歌 2. 5月の歌 (こいのぼり、おかあさん他)、食べ物に関連した手遊び歌 3. 6月の歌 (カエルの歌、かたつむり他)、輪唱の体験、導入に適した手遊び歌 4. 7月の歌 (たなばた、みずあそび他)、生活歌を学ぶ、夏の手遊び歌① 5. 8月の歌 (おばけなんてないさ、うみ他)、夏の手遊び歌②、リズム遊び① 6. 9月の歌 (とんぼのめがね他)、文部省唱歌を学ぶ 7. 10月の歌 (どんぐりころころ他)、わらべ歌について学ぶ 8. 11月の歌 (まつぼっくり、もみじ他)、秋の手遊び歌、触れ合い遊び 9. 12月の歌 (雪のこぼろず、ジングルベル他)、ゲーム手遊び、リズム遊び② 10. 1月の歌 (お正月、ゆき等)、ジャンケン手遊び、リトミックについて学ぶ 11. 2月の歌 (まめまき他)、冬の手遊び歌、リズム遊び③ 12. 3月の歌 (思い出のアルバム他)、手遊び発表の計画作り 13. 手遊びの実技テスト① 14. 手遊びの実技テスト②、これまでの学習まとめと振り返り 15. 定期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たのしく遊べるこどものうた 改訂版」 (すずき出版) ・「手あそび百科」 (ひかりのくに) ・プリント配布 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・授業態度や確認テストでの点数、提出物の状況なども平常点として考慮する。 ・実技試験と筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要。 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と健康	授業の種類 (講義 ・演習・実習)	授業担当者 瀧澤 延子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>こどもの健康に関わる生活 (運動、生活習慣、食行動等) の影響について理解し、保育現場における指導力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>こどもの健康を促進する側に立ったとき、こどもの生活と健康に関する現状把握とそれによる課題の特定は重要である。本講座では、こどもの生活と健康に関する理解を深め、それらの結びつきから健康の実現を促す諸要因の働きについて検討していく。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>こどもの健康に関わる課題を自ら発見し、その解決に主体的に取り組むことができる素養を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育の基本 2 健やかな心と身体を支えているもの 3 乳幼児期の生活リズムや生活習慣の発達 4 乳幼児期の安全と保健指導のあり方 5 幼児期に培いたい「食を営む力」 6 領域「健康」と保育方法 7 領域「健康」と保育の実際 8 子どもが動き出したくなる環境 9 進んで戸外で遊ぶ理由 10 自分たちで生活の場を整える 11 健康や病気に関心を持たせる 12 領域「健康」の指導上の留意事項 13 意図的、計画的保育の必要性 14 主なアレルギー疾患とその対応 15 まとめ 			
「 [使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・新・保育講座 保育内容「健康」(ミネルヴァ書房) ・保育所保育指針 		[単位認定の方法及び基準] <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・授業参加態度を加味し、期末考査において、到達目標の 6 割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 子どもと自然	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 瀧澤延子 大塚三聖 鶴川真裕美 (全員実務経験者)	
授業の回数 30回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 子ども達と一緒に自然の中に出掛け自然を実感させるような指導ができるようになる。</p> <p>[授業終了時の達成課題] 乳幼児期には日常的に、自然に触れ合う事が豊かな人間形成の為に大切であることを踏まえ、保育士として自然への理解を深め感性を育てる。また、野外活動で実践力をつけ自然への磨かれた感性と柔軟な対応が身につけられるよう指導をしている。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <p>4月 年間計画について・目的について・内容について<春探し> 探した春を観察画にして画用紙にて提出</p> <p>5月 <春探し><苗植え><砂遊び> ・農の駅「あぐらって」に於いて、さつま芋の苗植え。 ・散歩時の保育士の配慮について ・西裏公園にて手足を汚して砂遊びを体験。</p> <p>6月 <シャボン玉遊び><水遊び> ・しゃぼん玉の作り方について調べ、それを基に実際に液や道具を作り遊びを体験する。 ・水遊びに適した道具を考案。またそれを実際に用いて水遊びの楽しみ方を体験する。</p> <p>7月 <キャンプ準備> キャンプについて (活動班・宿泊班づくり、しおり作り、キャンプファイヤーのリハーサル等)</p> <p>8月 <キャンプ>野外炊事・シャワーウォーク・キャンプファイヤー・アドベンチャープログラム等 国立磐梯青少年交流の家 (福島県) に於いて2泊3日で実施。</p> <p>10月 <さつま芋掘り>について考察・観察画 <秋の散歩>落ち葉拾い・木の実拾い <悠久山で焼き芋>芋煮汁、カートンドック</p> <p>11月 <水栽培> ヒヤシンス (変化に応じて開花するまで8枚の観察画を描く)</p> <p>12月 <野菜新聞作り><木のツルを使ったクリスマスリース作り> 保存方法 及び 調理方法など ※雪下野菜について学ぶ。</p> <p>1月 <雪遊び> 丘陵公園 (または防災公園) に於いて 積雪に関係なく第1週目に実施する (渦巻き陣取り・雪だるま作り・そりあそび等の体験)</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針解説書 (フレーベル館) ・ 幼稚園教育要領解説 (フレーベル館) 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 授業態度と、各課題の提出物で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こどもとあそび		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 瀧澤 延子 (実務経験者)	
授業の回数 30回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 通年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝承遊び、わらべ歌等伝統的な遊びから手遊び、歌遊び、ゲーム等現場で活かせるように実践力を身に付ける。 ・ レクリエーション援助技術を実践できる。 ・ 指導技能を身につける。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お手玉、あやとり、コマ、「あぶくたった」「しっぽとり」など保育園で役立つ演習を行う。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションワークとしてのホスピタリティ、アイスブレイキングの技法が活動の中で実践できるようになる ・ 現場で役立つ技能を身につける ・ 行事等の企画・運営・評価ができる 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>4月 ・初めましてのレクリエーション《お手玉、コマ (必修課題) 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「おはようのうた」に子どもの身支度の様子と擬音を入れ歌う ・ 手遊びをする 「グー・チョキ・パー」「ずっとあいこ」「青虫出たよ」「お弁当バス」 ・ 季節の歌に合わせて振付をする ・ いろいろなゲームをする ・ ジャンケンを使った遊びをする <p>7月 必修課題及び手遊びの試験<前半></p> <p>10月・あやとりをする (必修課題 一人あやとりと展開あやとり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 折り紙の指導法について (試験) ・ 遊びの企画をする (試験) ・ 体育的な遊びをする ・ グループで楽しむ遊びをする ・ 道具を使った遊びをする ・ 競争意識を取り入れた遊びをする ・ ことば遊びを取り入れた遊びをする ・ うたに合わせた振付遊びをする <p>1月 必修課題の試験<後半></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カルタを作って遊ぶ 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「手あそび百科」(ひかりのくに出版) ・ 「あそびうた大全集」(株)永岡出版 			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 授業参加態度を加味し、演習課題の試験で、到達目標の6割以上の修得が必要 		